

比較経営学会ニュース

No.1/2004.6

発行 比較経営学会事務局

501-1193 岐阜市柳戸 1-1

岐阜大学地域科学部 小西豊研究室気付

TEL&FAX 058-293-3309 E-mail:ykonishi @gifu-u.ac.jp

比較経営学会公式サイト <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacsm/index.html>

←注)
実際に送信される際には、メールアドレス中の@を半角に直してください。(以下同じ)

新理事長あいさつ・・・・・・・・・・	1	『比較経営学会学会誌』編集委員会・・・・・・・・	9
比較経営学会新役員および運営体制・・・・・・・・	2	30周年記念出版事業委員会・・・・・・・・・・	9
比較経営学会第29回全国大会・・・・・・・・・・	3	事務局からのお願い・・・・・・・・・・	9
比較経営学会会員総会・・・・・・・・・・	6		

新理事長あいさつ

理事長 門脇延行（滋賀大学）

梅雨に入り蒸し暑い日が続きますが、学会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。

さて、私はこの度図らずも比較経営学会理事長の大役を仰せつかることになりました。一言ご挨拶申し上げます。私たちの学会は、1976年に社会主義経営学会として神戸大学で産声を上げてから来年は30回目の記念すべき大会を迎えることになります。この間に国内外の状況は大きく変化してきました。世界では、なによりも先ず、旧ソ連・東欧諸国の社会主義経済体制の崩壊があります。それに伴い、市場経済のグローバル化が進展しています。また、情報通信分野での発展には目を見張るものがあり、IT革命の進展は止まるところを知らず、世界の有り様を大きく変えつつあります。

国内では、80年代の"Japan as No 1"と言われた「世界に冠たる日本」はどこへやら、90年代に

は、バブルの崩壊と共にデフレ不況に陥り、長期に渡る経済停滞と相次ぐ経営不祥事も重なり、かつての栄光を支えた、あの日本的経営も批判に曝され、今では見直しを迫られています。それと共に、アメリカ型企業経営がもてはやされている昨今です。

企業経営を取り巻く内外の大きな環境変化に伴う様々な課題に対して、我が学会はどのように対応してきたのか。何故、社会主義企業経営は失敗したのか、そのことについて学会としてキチンとした理論的総括をなし終えたといえるのか。市場経済への移行諸国における多国籍企業化は何を意味するのか。今や企業経営そのものが国際企業経営になっている下で、地球環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けて比較経営学はどのようにかかわれるのか。世界的に喧しいコーポレート・ガバナンスの議論の核心とその歴史的意味は

何か等々。

こうした様々な課題に応えるにあたって、比較経営学はその学問的「比較」優位をどこまで発揮しえてきたのか。比較経営学の方法論的な反省もいるのではないか。異なる体制・地域・民族・国家・セクターなどの何を、どのように比較するのか。その意味は何か。比較経営学の概念的枠組みがキチンと整理されてきたのか。

山積する研究課題に対して、知的誠実さをもってどこまで応えてきたのか、先ずは30周年を機会に振り返り、そして未来を展望することは無駄ではないと思います。これまでの学問的蓄積の上

に立って、高度に情報化し、グローバル化した時代にふさわしい比較経営学のパラダイム転換を為し遂げ、「情報発信」型の学会への脱皮をはかりたいものです。そのためにも、30周年記念事業として計画準備されている「国際シンポジウム」と「記念出版事業」を是非とも成功させなければなりません。それが比較経営学会の新たな地平を切り開く第一歩になることでしょう。

私も、学会の発展のために、微力ながらも、誠心誠意尽くさせて頂く所存であります。学会員の皆様方のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

会員総会（2004年5月14日）におきまして役員改選が行われ、以下の役員および運営体制がスタートすることになりました。

理事長	門脇延行（滋賀大学）	五十音順(敬称略)	◎常任理事
理事	（東日本）	（西日本）	
	青木國彦（東北大学）	井手啓二（長崎大学）	
	井上照幸（大東文化大学）	井上 宏（東邦学園大学）	
	岩波文孝（駒澤大学）	上原一慶（京都大学）	
	大西勝明（専修大学）	岡田尚三（高知大学）	
	加藤志津子（明治大学）	門脇延行（滋賀大学）	
	風間信隆（明治大学）	仲田正機（立命館大学）	
	◎小阪隆秀（日本大学）	中西一正（立命館大学）	
	出見世信之（明治大学）	◎夏目啓二（龍谷大学）	
	林 正樹（中央大学）	藤本光夫（愛知大学）	
	前田 淳（慶應義塾大学）	細川 孝（龍谷大学）	
監事	酒井正三郎（中央大学）	田中 宏（立命館大学）	
幹事	小西 豊（岐阜大学）		

学会誌編集委員会 委員長 中西一正（立命館大学）

編集担当理事 岩波文孝（駒澤大学）、前田淳（慶應義塾大学）、細川 孝（龍谷大学）

第30回大会プログラム委員会 委員長 林 正樹（中央大学）

プログラム委員 小阪隆秀（日本大学）、夏目啓二（龍谷大学）

加藤志津子（明治大学）、細川 孝（龍谷大学）

日本学術会議経営学研究連絡委員会委員 高橋由明（中央大学）

日本経済学会連合評議員 赤羽新太郎（専修大学） 加藤志津子（明治大学）

比較経営学会事務局 501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学地域科学部小西豊研究室気付

電話&FAX 058-293-3309 E-Mail :

比較経営学会第29回全国大会の報告

第29回大会実行委員会委員長

立山 杣彦（長崎大学）

5月14～15日、長崎大学経済学部において開催されました全国大会は、実行委員会の不手際も少なくなかったと思われませんが、会員の皆様方のご協力でおおむね成功裏に終了することができました。報告者・討論者・司会者およびその他の参加者の方々には心よりお礼を申し上げます。報告の内容などにつきましては、まもなく発行されます『比較経営学会誌』第29号を御覧頂くこととしまして、同大会の概要につきまして簡単に報告致します。

昨年からのプログラム委員会（委員長：現理事長の門脇延行会員）や理事会での一連の議論を踏まえ、2月中には大会プログラムが決定されました。統一論題は、ここ数年の同大会の流れを踏まえ、「持続可能な社会と比較経営研究の展開」とされ、新たな試みとして3つのセッションが設けられました。2月

以降、前理事長の井手啓二会員とともに本格的に諸々の仕事にあたりました。この間、前事務局長の田中宏会員より多大な支援を頂き、お礼を申し上げます。さらに、大会当日も含め当学部の院生・学生が大活躍してくれまして本当に助かりました。なお、資金面では、長崎大学経済学部東南アジア研究助成会より援助して頂きました。

大会参加者数は予想を超えており、その内訳は次のとおりです。会員参加者60名；会員外参加者11名。後者の内訳は次のとおりです。長崎大学教員2名；それ以外の大学教員4名；長崎大学学部生・院生4名。その他当日手伝ってくれました学部生・院生が12名いましたが、彼らの多くも熱心に報告や議論に傾聴しておりました。なお、懇親会も、参加者は40名を超えており、きわめて盛会でした。

最後に、来年の龍谷大学での創立30周年記念大会の成功を祈念致しまして、報告を終わらせて頂きます。

事務局から直接、松田健会員（明治大学）、横井和彦会員（同志社大学）、中道眞会員（龍谷大学）にお願いし、第29回大会参加印象記を寄稿していただきました。

松田 健会員（明治大学）

比較経営学会第29回大会は、5月14・15日の2日間、長崎大学経済学部を会場として開催されました。

5月という時期は、大気が安定していることから、天候も好く過ごし易い時期であるという印象が強いのですが、残念ながら2日目には雨に降られてしまいました。少しばかりですが、昔の流行歌の歌詞が頭を過ぎりました。

今大会の統一論題は、「持続可能な社会と比較経営研究の展開」でありました。この統一論題を受け、セッションでは、多くの報告者が、「企業統治」あるいは「企業倫理」を報告の主題として取り上げました。

こうした点は、多くの報告者が統一論題を根底に置きつつ、企業のあり方そのものに対する考察を通じた経営経済学的な視点に立ちながら、持続可能な社会をいかに形成し、また維持していくのかという問題に対して検討を加える、ということを試みていると理解され、したがって、人間社会の物質的發展を支える経済活動そのものと、この運動の主体と考えられる企業とを、社会構造の中でどのように位置づけるかという点こそが、「企業統治」あるいは「企業倫理」の重要な問題であると私には理解されました。

また、報告に対する質疑とそれに対する応答は、自身の研究への直接的な示唆のみならず、関連領

域に対する知的好奇心を大いに刺激するという点において、極めて興味深いところであります。この点においても、本大会では、司会者、討論者を始めとして、大会実行委員会による柔軟な時間配分が、議論を効果的にリードしていたという印象を持ちました。学会の運営上、時間というものは常に大きな制約条件になりますが、白熱した実のある議論が展開されている時には、終了時間の変更を含む時間の再配分をも考慮に入れた、ある程度柔軟な対応が望ましいのかもしれませんが。

最後になりましたが、本大会の会場設営ならびに運営にご尽力いただいた長崎大学の先生方、スタッフの皆さまのきめ細やかな対応に対し、篤く御礼申し上げます。

横井和彦会員（同志社大学）

筆者は、この度の全国大会に、自由論題A会場、第2報告に対する討論を依頼されたのをきっかけに参加した。当学会には長らくご無沙汰いたし、今回の参加で再入会の手続きをとっていただいたほどであるような筆者が、このようにニュースレター第1号に参加印象記を掲載するのは恐れ多いこと甚だしいのではあるが、かえって率直な印象を述べることをお許しいただけるのではないかも思い、お引き受けした次第である。筆者が参加したのは、上記の自由論題と統一論題の第I～IIIの各セッション、会員総会、懇親会である。

自由論題 A 会場は、躍進著しい中国の企業経営および企業改革がテーマであった。第 1 報告は、その象徴である家電メーカー・ハイアール（海爾）のブランド戦略をとりあげたものであった。ハイアール躍進の契機となった事件やサービス、広告について、現地の報道などのビデオやパンフレットをまじえて直感的に伝えようとした報告であったように感じた。第 2 報告は、武漢製鉄所の株式会社化を事例に、企業改革の中国的特質をさぐるうとしたものであった。詳細な、手堅い研究のうえに、中国における株式会社化が、企業形態の転換・民営化によって経営の効率化をはかるという通説とは異なり、資金調達的手段となっているという大胆な結論を導き出した報告であったように思う。

統一論題（持続可能な社会と比較経営研究の展開）においては、第 I セッションでは「比較経営研究」に重点を置いた、アメリカ、日本、ロシアにおける企業統治についての報告、第 II セッションでは「持続可能な社会」に重点を置いた、ドイツにおける労使関係、グローバル企業およびフランス企業における行動規範や企業倫理についての報告、第 III セッションでは北東アジア・中国という「地域」に重点を置いた、エネルギー・環境問題や経済発展、企業統治についての報告がそれぞれ行われた。この統一論題については、各報告に対する質疑・討論の場や、会員総会においても、比較研究の難しさや、「持続可能な社会」についての考え方など、かなり本質的・根本的な問題が提起され、筆者も、大いに考えさせられた。すなわ

ち、当学会の趣旨から考えれば、「比較」といっても、それはたんに国や地域の比較にとどまらず、人類・社会の、本来の、あるいはあるべき姿と現状との比較でもあり、したがって、比較のうへの収斂についても念頭に置いておく必要があるということである。研究対象が中国である筆者の場合、市場経済化という流れのなかで、資本主義諸国との違い、あるいはそれとの差ばかりに目がいきがちであるが、一方の資本主義諸国における問題についても、このような学会をつうじていっそう認識を深めていかなければならないと思った次第である。

最後に、多くの会員が参加し、活発な質疑応答が展開されていたことから、上記の思いがかなう学会であるとの印象をもったことを記してむすびとしたい。

中道 眞会員（龍谷大学）

比較経営学会の大会へ参加させて頂くのも初めてでしたが、実は長崎も初めてでしたので、大会へ参加しての印象としては、まず着陸する間際の長崎の特異な風景でした。市内へ向かうバスの車窓から見ると、何となく出身地近くの神戸に似た風景とも感じましたが、学会初日の帰りに長崎大学の門から見た正面風景の異質さには驚かされました。急斜面に夕日に照らされた家がびっしり張り付いている景色に感動さえ覚えました。

ところで、新入会員としての学会参加の印象ですが、学会の雰囲気非常に穏やかで、学会員相互の「密な距離」が印象的でした。ともすれば形

式的になりがちな学会運営や議論内容ですが、形式を超えた柔軟な学会運営や議論内容に「密な距離」を感じた次第です。

「経営学」「比較経営学」をどう捉えるかといった問題が常に議論の背景・本質として意識され、かつ議論が深く突っ込んで行われていることに、私自身の方法論の問題を考える際の取っ掛かりを頂きました。報告者と討論者、そしてフロアの学会員との共通認識と相違点が明確にされる議論の過程と到達点の内容そのものに、より規模の大きな学会とは違う学会員の「密な距離」を感じたと同時に多くの示唆と刺激を頂きました。

また、統一論題「持続可能な社会と比較経営研究の展開」に関しても多くの示唆を頂きました。一点のみ書かせて頂きます。初日のアメリカ・日本・ロシア各国のコーポレート・ガバナンスの比較に関する議論です。中でも論点がステークホルダー論として捉えるコーポレート・ガバナンス、つまり「企業と社会」という関係で捉える議論がありました。私の研究テーマに関わるところで、多国籍企業が支配する社会としてのみ捉えるので

はなく、その関係性に軸をおきながら、「持続可能な社会」を目指して、どのように多国籍企業へ市民たちが対抗するかといった視点の重要性を示唆して頂きました。

最後に、長崎名物のご馳走をお腹一杯頂きました。長崎大学での懇親会終了後、恩師に初めて聴かせて頂いたカラオケ曲で私も好きな“長崎は今日も雨だった”を実体験できましたことも印象深かったことでした（実は雨の日が少ないそうです）。以上、簡単ではございますが印象記とさせていただきます。比較経営学会の新入会員として今後とも宜しくお願い申し上げます。

この度は、入会のみならず新入会員印象記まで書く機会を頂きまして有難うございました。長崎にて初めて比較経営学会の大会へ参加し、大変よい経験と多くの示唆を頂きました。学会員の諸先生、および実行委員会の諸先生へ深くお礼申し上げます。

2004年比較経営学会会員総会議事録

日時 2004年5月14日(木曜日) 16時～17時

会場 長崎大学経済学部本館新館101号室

(1) 議題

(審議事項)

1. 退会者および入会者について、理事会審議の結果が報告され、了承された。

物故者2名、退会者3名、入会者8名

2. 滞納者及び住所不明の会員の取り扱いについて

学会規則第6条第2項にしたがって、3年の会費未納者については、会員資格の継続の意思確認を行い、返事がない場合には、除籍と見なすことが承認された。張美玉会員の除籍が承認された。

3. 2003年度の活動報告について

事務局担当の田中宏理事より以下のように活動報告がなされ、了承された。

<2003年度>

5月23・25日 第28回大会（立命館アジア太平洋大学A棟）

6月7日 東京大学学士会館別館で30周年記念出版事業委員会を開催、5名が（井手、大西、井上、酒井、田中）出席して、5点について合意。

6月14日 学会事務センターに入会者、脱退者、住所変更の連絡を行う。

7月7日～23日 会員住所録と立山会員の抜き刷り、学会資料を会員に郵送

7月 学会事務センターの代替団体を探す（見積もり請求）

8月1日 第一回拡大常任理事会への開催案内通知発送

8月29日 日本学術会議事務局より『日本学術の質的向上への提言』『科学における不正行為とその予防について』を配布される。『提言』にはpp. 35-39[4]経営学について指摘あり。

9月5日 第一回拡大常任理事会開催（愛知学院大学）15名出席

9月10日 第19期経営学研究連絡委員会委員候補者の推薦

高橋由明理事 中央大学商学部教授を推薦する

9月15日 第29回全国大会の報告の募集及び科研費への応募のお願い

10月24日 日本経済学会連合「学会英文年報」への比較経営学会紹介

10月末日 科研費申請（1件；井手啓二代表：移行経済諸国企業の多国籍企業化に関する比較実証・理論研究、B（1））

12月13日 東日本部会開催（中央大学理工学部校舎）

11月29日 西日本部会開催（関西大学（千里山）経・商研究棟4階4A会議室）

<2004年>

3月5日 日本学術振興会科学研究補助金審査員に関する情報提供

3月8日 西日本常任理事会合

3月15日 比較経営学会誌発送（アンケート同封）

4月末日 第3回理事会への案内状の発送

5月13日 第3回理事会開催

4. 2003年度決算報告について

決算報告および監査報告について、別紙の収支報告書の説明および監査報告がなされ、了承された。

5. 2004年度予算について

別紙の収支予算書にもとづき予算案が提案され、了承された。

6. 30周年記念事業について

旧理事会から選出された会員および現常任理事が中心となって30周年記念事業委員会を発足させ国際シンポジウムと出版記念事業を行なうことが報告され、了承された。運営組織体制は以下の通り。

委員長：門脇延行理事長

副委員長：井手啓二理事、高橋由明前理事

国際シンポジウム：責任者は田中宏前理事

夏目啓二常任理事、酒井正三郎理事、日高克平前理事

小山洋司前理事、貫 隆夫氏

出版事業：責任者は溝端佐登史前理事

小阪隆秀常任理事、大西勝明理事、稲村毅前理事

赤羽新太郎前理事、井上照幸氏

7. 第30回大会開催校について

第30回大会開催校について、龍谷大学で開催することが了承され、夏目啓二理事（龍谷大学）より開催校を引き受ける旨の挨拶がなされた。

8. 学会事務委託先の変更について

学会事務の委託先を財団法人日本学会事務センターから他の委託先へと変更することが報告され、了承された。

9. その他

(報告事項)

1. 『比較経営学会誌』編集委員会
2. 日本経済学連合について
3. 日本学術会議の大幅再編について
4. 日本学術会議経営学研連について
5. 日本経済学会連合よりのお知らせ(外国人学者招聘滞日補助および国際学会派遣補助、2月、6月)
6. その他

(2) 次期役員の改選

次期の理事および監査が選挙された。

『比較経営学会学会誌』第29号原稿募集

自由投稿論文、書評原稿を募集しています。投稿論文の原稿および書評候補文献応募の締切は8月31日です。詳細は同封の『比較経営学会誌』編集委員会からのお知らせをご覧ください。

『比較経営学会30周年の歩み』アンケートにご協力を！

30周年記念出版事業委員会では、2005年度春刊行を目指し、『比較経営学会30周年の歩み』を企画しています。比較経営学会の発展に資するための800字程度の学術アンケートを会員のみなさんをお願い致したく存じます。どうかご協力のほどをお願い申し上げます。

詳細は同封の『比較経営学会30周年の歩み』アンケートをご覧ください。

事務局からのお願い

次頁に入会申込書を印刷しておきましたので、一人でも多くの新規会員を増やしていただきますように、会員各位をお願い申し上げます。入会申込書はコピーしてお使いください。

なお、メールアドレスをお持ちで、このニュースが郵送版でしか受け取れない会員のみなさんは、メールアドレスを事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。比較経営学会にはメーリングリストもcm-jacsm@tamacc.あります。ご利用のほどお願い申し上げます。